

# かつしか区議会 公明党 ニュース

平成28年  
秋号

## 平成28年 第3回区議会定例会 が開催されました。

平成28年第3回区議会定例会において、公明党葛飾区議団を代表して

**出口よしゆき 議員** **江口ひさみ 議員** が一般質問を行いました。質疑の内容は、次の通りです。(要旨)

### 出口議員



#### 1 観光施策について

**問** 国の地方創生加速化交付金を活用した「東京理科大学と協定自治体との連携による、まちの魅力発信事業」の現時点での概要を問う。

**区長** | 葛飾にいじゅくみらい公園を主会場として、東京理科大学・金町駅周辺・本区と連携・協力協定を締結している自治体等と連携して、新たに「金町の冬の風物詩」となる事業を実施する。

金町駅周辺、東京理科大学葛飾キャンパスでのイルミネーションや大学校舎棟でのプロジェクトマップの他、地方の特産品の宣伝・販売等を行う予定。



#### 2 障害者の入所施設について

**問** 中期実施計画で示した地域生活支援型入所施設の整備を着実に進めると考えるが、区の見解を問う。

**区長** | 地域生活支援型入所施設について、本年8月、施設整備に係る国及び都の補助金が内示された。短期入所、就労継続支援B型、生活訓練、相談支援といった障害者の地域生活を支えるサービスも併設することになっており、地域生活支援型入所施設と併せて、これらのサービスの整備費も助成する。

#### 3 医療的ケアを必要とする障害児の通所施設について

**問** 医療的ケアを必要とする障害児の通所施設を区内に整備する必要があると考えるが、区の見解を問う。

**福祉部長** | NICU(新生児特定集中治療室)を退院した児童の実態を把握した上で、障害者施策推進計画策定委員会の場において、医療的ケアを必要とする障害児の通所施設の整備について検討をお願いする。

#### 4 金町駅北口周辺地区のまちづくりについて

**問1** 再開発事業が動き出すことに併せ、金町駅北口周辺地区の課題の解消に向けた取り組みが必要と考えるが、区の見解を問う。

**区長** | 解決すべき課題として、理科大学通りの整備に併せた歩行者などの安全性の確保、手狭な駅前広場の整備による利便性の向上、しょうぶ通りの整備によるバス等の回遊性の確保、JR金町駅の改善による安全性、利便性の向上など、非常に重要性、必要性の高いものが多いと考えている。金町駅北口周辺地区の一日も早い課題の解決に向けて、積極的に取り組んでいく。

**問2** 東金町一丁目西地区では、東京理科大学に続き、新たな賑わいの創出、更なる発展が実現できる計画とする事が必要と考えられるが、現時点での区の見解を問う。

**区長** | 平成28年3月には、東金町一丁目西地区市街地再開発準備組合が設立され、平成28年6月には事業協力者を選定し、現在再開発計画の検討が進められている。

準備組合からは、東金町一丁目西地区に隣接する区のみちづくり用地約0.8haと一体的に街づくりの検討をさせて欲しいと要請を受けている。金町駅北口周辺地区の新たな賑わいの創出、更なる発展に寄与するよう協議、指導していく。



### 江口議員



#### 1 葛飾版ネウボラについて

**問** ネウボラにおいては保健師などの専門職が妊婦さんのサポーターであるべきことを考えると、展開するのに相応しいのは、保健センターであると考え、区の見解を問う。

**区長** | 本区においてもネウボラは効果の高い妊娠、出産、育児支援策であると考えられる。葛飾版ネウボラ事業を構築するに当たっては、保健センターが核となり、全ての妊産婦と家庭の状況を把握し、個々の母子とその状況に応じて妊娠期から就学前までの子どもの成長・発達への支援、家族全体の心身の健康を支援する体制を整備していく。



#### 2 自助力の強化・向上のための防災施策について

**問1** 災害時の本区を取り巻く環境を想定した要素を盛り込み、乳幼児等いる家庭向けの葛飾版防災ブック(仮称 防災ママブック)を作成することを望むが、区の見解を問う。

**危機管理・防災担当部長** | 講習会やワークショップなどを通じての活用を図るとともに「乳幼児のいるご家庭向けの葛飾区版防災ガイドブック」の作成も検討していく。

**問2** 防災意識の向上などの意味から、防災対策関連のサイン(避難場所等)は、避難場所等が明示されたシールを作成し、既存の消火器ボックスに貼ってはいかがか。

**危機管理・防災担当部長** | 視認性の良いシールによる最寄りの避難場所の案内などを明示することは、有効な手段と考える。また、街路消火器の周知につながり、初期消火活動や延焼防止に有効と考えるので、導入に向け検討する。

#### 3 認知症の正しい理解と共生の地域社会づくりについて

**問** 「かるた」など世代を選ばずに遊べるツールを作成し、区内の小中学校、高齢者施設、児童館に配布し活用すれば、認知症に対する正しい知識の普及に役立つと考えるが、区の見解を問う。

**区長** | 公募した認知症に関する標語などを基に、様々な分野の方々の参画をいただき、かるたやトランプなどのツールとしたり、ポスターや看板などに効果的に活用できる方法を検討し実施していく。

#### 4 家族介護者に寄り添う仕組みづくりについて

**問** 「訪問レッスン」のように、介護に不安を感じている家族介護者のもとへ訪問し、不安や疑問を解消して負担を軽減出来る仕組みを取り入れるべきと思うが区の見解はいかがか。

**区長** | 介護技術の習得支援である「訪問レッスン」については、国の検討状況を注視し、家族介護者の実態を把握したうえで検討する。

#### 5 奥戸フラワーパークの活用について

**問** 3月の委員会でバラのフォトコンテストの開催等について提案したが、その後どのような検討がなされ、今後どのような展開を考えているのか伺う。

**区長** | ホームページに多くの種類のバラやダリアの写真とともに公園内を掲載した。また、より魅力ある公園にするため、バリアフリーの観点や利便性を考慮しながら、リニューアルとともにPRの方法の検討も進める。